

社内に根付いた、仕事と家庭生活の両立支援

中西印刷は、江戸時代末期の木版印刷時代から続く、歴史ある印刷会社。「印刷を通じた文化学術の貢献」を社是に掲げる同社の大橋千賀子部長、石田恵奈美課長に話を聞きました。

中西印刷株式会社

設立 1953年（昭和28年）12月16日
資本金 2,000万円
代表者 代表取締役社長 中西隆太郎
社員数 79名
本社 〒602-8048
京都市上京区下立売通小川
東入る西大路町146
<http://www.nacos.com/>



時代の変化を発展に導く
柔軟な体制を持った企業

中西印刷は、一般印刷、学術書の印刷・編集をはじめ、インターネット上で雑誌の内容を配信するオンラインジャーナルの発行、学会事務代行等を手がける会社です。

技術革新に伴い、印刷業界は木版印刷から活版印刷、そして現在の電算写植へと時代ごとに大きな変革を遂げてきました。中西印刷がそんな流れに柔軟に対応できたのは、先進的な考えを持っていたからにほかなりません。それは印刷という技術面だけでなく、社員が働く環境づくりにも当てはまります。

活版印刷時代は力仕事が多く職場は男性中心でしたが、電算写植に時代は移り、コンピュータ管理の印刷が行われるようになると、女性の活躍の場が広がり、中西印刷では女性の採用が活発になりました。総務部長の大橋千賀子さんは、中西印刷初の女性管理職、課長職を経て部長となり、現在は社内の人々から大変頼りにされています。

女性の管理職として、「特にやり辛かったり、周りの目が気になったり」ということはありませんでした。特別な感じがなかったのは、元々男性だから、女性だから、という考えがない社風だったからではないでしょうか」と大橋さんは言います。現在

では、管理職12名のうち4名が女性です。

管理職なりの苦勞も色々…
それでも楽しい職場づくりを

穏やかに話す大橋さんを、入社当時から見えてきた編集校正課長の石田恵奈美さん。石田さんは国際的な学術書の制作に携わる編集者。課長職に就いてからは、通常の業務に加え管理職としての業務もこなしています。管理職になってからは、部署内の仕事の調整や他部署とのやりとり、会議など、さまざまな仕事が増えました。それでも課長補佐をしていたので、管理職の仕事内容について多少認識やノウハウはあったものの、いざやってみると、なかなか大変です。けれど、社員の残業時間やストレスを減らして働きやすい環境をつくれるように取り組んでいます。社員の残業や休日出勤を監督するため、時には自分の時間が削られることもある管理職。仕事の時間は増えていますが、休む時は休む！そうしてストレスを溜めないようにしています。石田さんの言葉に大橋さんもうなずきます。

「管理職を引き受けてくれる女性が多くはないのが現実です。大変なことも多いと思いますが、石田さんのように積極的に管理職の業務をこなす女性が増えて欲しいですね」と言う大橋さん。それに応えるように、石田さんは編集校正課で後輩をリードしつつ、

笑いの絶えない明るい雰囲気できいきと仕事をしています。

女性が働きやすい環境には
周囲の理解が必要

中西印刷では、女性の管理職登用だけでなく、仕事と家庭生活の両立支援にも積極的に取り組んでいます。平成19年5月に導入された「短時間勤務従業員制度」では1日当たりの勤務時間を短縮するか、週5日の出勤を4日にするかのどちらかを選ぶことができます。また、残業時間の上限を自己申告する制度や、ノーマル残業デーなど数々の取組も行われています。

「結婚、出産を理由に退職する社員は少なくありません」と言う大橋さんと石田さん。それには会社の制度だけでなく、周囲の理解も不可欠です。私の部署では現在、1名が育児休暇中、1名が産休予定、そしてもうすぐ男性社員1名が育児休暇を取得予定です。15名の部署で3名抜けてしまつと、その調整は大変。けれど周囲の理解があるため、残った社員が協力して業務分担を行っています。復帰して働きたい、という人が多いのもそういった環境があるからではないでしょうか」と石田さん。

社内に根付いた、仕事と家庭生活の両立支援。中西印刷では、社員一人ひとりがその能力や経験を最大限に生かし、いきいきと働いています。

性別にかかわらず仕事に集中できる
環境が整った会社です



最後に『ああ、働いていて良かったな』と思えるような仕事をしたい

英字入力事務などを経験後、総務部に配属され女性初の管理職に。「今後も良い制度は取り入れていきたいと思っています。しかし保育所の受入れが少なく、社員が職場復帰できない場合も…。企業の努力だけでなく、行政による一層の支援に期待しています」



大橋 千賀子さん
総務部長

社内では肩書きではなく「さん」と呼び合う、ざっくばらんな雰囲気

入社以来、各国の言語を扱う学術書の編集校正に従事。「私が入社したときから、大橋さんが管理職としておられたので、女性管理職に違和感はありません。『仕事をしたい!』という社員のやる気に応えられるよう、働きやすい環境づくりができればと思っています」



石田 恵奈美さん
編集校正課長



あなたの会社も「男女共同参画推進宣言」してみませんか。詳しくはP9をご覧ください。